

# 福岡市環境審議会循環型社会構築部会議事録

1 日 時 令和元年 9 月 25 日（水）10：00～11：30

2 場 所 アクロス福岡 607 会議室  
（福岡市中央区天神 1 - 1 - 1）

## 3 出席者（敬称略）

・福岡市環境審議会委員

	氏 名	役 職 等
部会長	松 藤 康 司	福岡大学 名誉教授
	伊 藤 嘉 人	市議会議員
	大 森 一 馬	市議会議員
	勢 一 智 子	西南学院大学 法学部 教授
	平 由以子	特定非営利活動法人 循環生活研究所 理事
	田 中 綾 子	福岡大学 工学部 教授
	中 山 裕 文	九州大学大学院 工学研究院 准教授
	久 留 百合子	(株) ビスネット代表取締役／消費生活アドバイザー
	松 野 隆	市議会議員

## 4 会議次第

(1) 開 会

(2) 議 事

・「新循環のまち・ふくおか基本計画」の進捗状況について

(3) 報 告

・古紙分別強化に向けた今後の取組み及びスケジュールについて

(4) 閉 会

## 5 議事録

議事 「新循環のまち・ふくおか基本計画」の進捗状況について

【事務局】

（資料 1 について説明）

【部会長】

多岐にわたる説明だったんですけれども、審議に入りたいと思います。今、事務局からの報告事項について、意見や質問、アドバイスがあればお受けいたします。

## 【委員】

詳細なご説明と資料でよく分かりました。

2点あるんですけれども、一つはプラスチックの考え方です。私たち市民は福岡市の場合はビニールとかプラスチック類というのは燃やせるという意識があるので、立派な焼却場があって、それであまり意識はないんです。でも、世の中は、ストローばかりいうのもどうかなと思うんですけれども、あれは海洋ごみになっていろんな問題が起こってきているので象徴的に言われているんだと思うんですけれども、私たち福岡市民としてはプラスチックのごみをどう考えていったらいいのかというのは、よく周りからも聞かれるんです。市町村によってはプラを分けているところもあるみたいですが、福岡市の場合は燃えるごみで出していいということで、その辺のところを今後どう考えていったらいいのかという質問なんです。

私のことであれですけど、ここにも書いてあったので、お惣菜とか買った時、パックとかお弁当の殻とかあいうプラスチックごみというのはものすごく出るんです。ですから、その辺をどういうふうに考えていって、市民に伝えていったらいいのかというのが一つです。

それから、もう一つはちょっと大きな問題になりますけれども、目標を立ててらっしゃるグラフ、例えば2ページとかリサイクル率もそうですが、7ページとか、この辺が令和2年の目標というのとはちょっとやはり乖離していると思うんです。あまりそこは言われなかったんですけれども、基準年次から比べると横ばいに進捗していますというふうに言われるんですけれども、実際の目標に対してはちょっとまだ乖離しているので、ここが目標達成がはたしてできるんだろうかというところ、その2点をお尋ねしたいと思います。

## 【事務局】

それではまずプラスチックのほうからお話しさせていただきます。プラスチックにつきましては、容器包装による分別・収集、福岡市の場合ペットボトルについてはプラスチックの一つとして収集をしているわけですが、残りのプラスチックについては今の現状で申しますと、もともと福岡市の場合夜間収集であるという、夜間の戸別収集をやっていることや、毎年1割近い人口の移動があっている。そうすると分かりやすい制度が必要ということ念頭に、トータル的な分別ですとか排出時の市民の負担ですとか、あるいは収集・運搬、あるいは処分の経費、収集車両が排出する二酸化炭素の課題を総合的に判断して、今の分別区分としているところです。

ただ、ご存じのとおり、国のプラスチックの循環戦略というのが出ております。こういったものの中を見ますと、2030年度までに容器包装の6割をリユース・リサイクルしましょうという、そういった目標値が掲げられている状況でございます。こういったものにつきましては、今の段階ではどうするかというのは検討中という形になると思いますが、実際にこのことをやるかどうかについては、環境審議会や循環型社会構築部会にも当然図っていきながら、最終的にどういった折り合いを付けるかというのを判断していきたいというふうに考えております。

あと、目標達成、確かに10年間を振り返ってという説明をしていたところなんですけど、実際、最終にはあと5年しかない状況ですので、今の状況を考えるとかなり厳しい状況かなというのは間違いはない。確かに目標値というのはございますが、残念ながら当初の目標は、もともとの計画を作った時にはこれほどまでに人口増が出るということや、あるいは景気がどれだけ元気である福岡という形で上昇するというのは、その策定当時には予想できなかったこととございます。

今の状況を見ますと、その原因である程度乖離が出ていることは分析しておりますが、今の目標量が今からいろいろな施策、今後、古紙の分別とかもやっていきますが、5年間でその目標を達成するのはやはり物理的に厳しい状況だと言わざるを得ないと考えております。

#### 【部会長】

よろしいですか。いろいろ意見もある方はほかに何か。どうぞ。

#### 【委員】

ご説明ありがとうございます。私からもいくつか質問というか、コメントを含めてお話しさせていただきたいと思います。

先ほどご指摘がありましたけれども、目標達成がかなり厳しい部分があるということで、確かにそういう現状の分析ということだと思うんですけども、そういうことを踏まえまして、例えば2ページのごみ処理量の状況のところのご説明というか、この資料の中の評価ですと横ばいで推移と。人口が増加している中で、事業所が増加している中で、単位当たりは減っているから頑張っているのではないかというふうにも読める評価で、これは市民の人が普通に聞いたら、甘いのではないかというふうに批判されてもやむを得ない部分はあろうかと思えます。

ですから、策定時に想定できなかったということをご説明を頂戴しましたけれども、そうであるんだとすれば状況が変わっているのであるから、目標を修正するなりしなければ、想定外の目標に向かって走るのかと、これはちょっと非現実的だろうと思えます。これは他の計画もそうですけど、地方創生なんかもそうですけれども、状況が変われば目標値を変えていくのは当たり前のことですから、ここはきちんと調整をしていただくというのが第一になるだろうと思えます。

その際には、人口構造が似ている他都市との比較であるとか、これまで行ってきた施策を少し見直して考えていくということは必要なだろうと思えます。

併せて、それとの関連ではあるのですが、8ページ以下のところで数値目標の内訳のご説明を頂戴しました。ここでいくつか実績を出していただいているのですが、それが目標値と随分ずれているのがあります。例えば4番目の「スーパーマーケット等による店頭回収」、これは回収の品目が広がったという評価だと思うんですけど、広がったのはいいことだと思いますが、これまでの数値に合算して出してしまうと、想定していた部分がどのくらい変化をしているのか、この実績で最終目標にどうやって向かっていくのか、これは目標を見直すか、ステートの取り方を変えてそれぞれ分けて見るのかということをしなければ、おそらく実情が見えてこない。

同じ点はもう一つご説明いただいた10ページの12番の「緑のリサイクル」のところ、これも民間施設からの処理量を含めて、これを合算してしまうとこれも当初の目標値とずれてしまう。こういうのが社会状況の変化というのは当然あり得るので、いろんなところで生じると思うんです。

いいほうに変わったことには肯定的に捉えて対策に組み込んでいけばいいので、その時に計画や数値との整合性をどうやって見ていくか、新しい取り組みの評価とかこれまで市がやっていきたいと思っているものの評価をどう考えるかということを見れるような指標を作るというのは非常に大事だと思いますので、ここは研究をして対応していただきたいと思えます。以上です。

【部会長】

どうもありがとうございました。そのほかに何か。

【委員】

この計画そのものが、令和 7 年度まで基本計画に則って進められるということなんですが、今ご質問等にもありましたことに対してなかなか進捗がはかばかしくないという状況から考えて、もう少し思い切ったことを新たに計画を見直すとか、そういったことも必要なのかなというふうに思っております。

その中で一つ、福岡市は 4R ということが全くこれまでも聞かないんですけども、もう一つのリフューズという、そこについてはどのように思っておられるのかというのをお聞きした上で、意見を言わせていただければと思っています。

【事務局】

委員のお話があった 4R、リフューズの部分がというふうなのがここには出ていないのではないかと。解釈の考え方としては、3R のうちの 2R の部分にそれを含めてというふうな考え方でずっとご説明をしてまいりました。それでこの部分がちょっと弱いのではないかとというふうなお話だと思いますので、もう少しこれについては中身の啓発とか、もともとその中に含まれているということできっと考えておりましたので、そこをもう少し強調することで対応するのが一番いいのかなというふうに考えております。

【委員】

行政というか福岡市の取り組みとして、市民にどうアピールしていくかということを考えると、リフューズということを強く打ち出すということは大事なことじゃないかなと。そうすることによって本当の発生抑制につながっていくんじゃないかなというふうに思っております。先ほどもご意見がありましたように、包装容器としてプラスチックが使われて、それは買って処分をせざるを得ないわけで、そうするとなかなかやはり今のライフスタイルからして減っていかないということもあるでしょうし、包装容器そのものをどうしていくかという事業者側の取り組みがこれから求められていくという意味では、そういった姿勢を福岡市として強く押し出す必要があると思う。

うちの近所の酒屋に行くと、夕方になるとおじちゃんたちが家から酒瓶を持ってくるんですね。量り売りで焼酎を買って帰るんです。非常にこれはいいないつも思いながらほほえましく見ているんですけど、そういうような昔からあるような素朴というか、単純だけれどもやはりこれから実はすごく大事なんじゃないかと。

そういうようなものをこれから続けていきませんと、人口が増えている割には横ばいですよいつまでも言えませんし、本当に人口の増加が止まった時に、横ばいだった時に、どう説明されるのかなというふうに思います。実際、福岡市の人口増は少し鈍化をし始めていますので、そういう意味ではこれから少し中身の変更というか、追加というか、そういったことも考える時期にきているのかなという気はしております。もし何かあればご助言をお伺いできればと思います。

## 【委員】

資料が昔と比べるとすごくセンスも良くなって、見やすくなりました。ありがとうございます。

これ自体がこれをもってさらにごみを減らそうという気持ちになるということですよ。それを中心に意見したいんですけど、そうだとしたら東京都の調べによると、この10年間で環境行動に対する意識は25%も低下しているんです。震災の時期に一時浮上したんですが、またその後ぐっと下がって行って、その原因をアンケートで調べると、ほとんどが「リサイクルをしても効果が分からない」とか「何の役に立っているのか分からない」とか「実感しない」ということが理由なんです。

実際は、エコがはやりで、すごくごみとか減っているように見えるんですが、実は企業とか行政のサービスが向上しているだけで、一人ひとりの意識が減っているという結果が出ているにもかかわらず、これを見ると危機感を感じないんです。なので、もしこれをもって皆さんにもっとごみを減らしてもらおうと思えば、危機感を感じるような書きぶりをしたほうがいいのではないかなというふうに思います。

実際のところ生ごみのところを見ると減っているんですが、それは中食が増えているというのは容器包装が増えているということでマイナスなんです。グラム数でいうと、プラスチックのほうがグラム数が少ないんですが、環境に対する負荷が非常に大きいということです。

海ごみは生活ごみの暮らしのごみが海で現れているだけなので、じゃあ暮らしをどう変えるかというのは非常に切羽詰まっていて、今の世の中は持続不可能じゃないですか。この5年間の行動変容が今後の持続可能性をどうするかにかかっているとされているので、今年のタイの国際会議でも出たんですけど、やはり資源が限られているんだから人もお金も全て回すということで、サーキュラエコノミー一色なんです。サーキュラエコノミーの中でも堆肥作りとかコンポストの部門が遅れているので、それをということでその話がたくさん出ているんです。

そう考えると、EUから出て環境省経由で福岡市に施策が来るんだったら、すごく遅れているんです。福岡市は政令都市なので、ぜひ早く手を打つというところで、例えば生ごみのところでは、レジ袋を調べると75%に生ごみが入っているから、生ごみ捨て袋として市民が要らないと断れないというところがはっきりしていて、それはマイバッグ運動が30%以上普及しないというところと直結しているんです。だから意識を増やすという意味でも、もっと教育の部分を学校とか市民で増やしていくというのは切羽詰まっている問題だと思います。

食ロス法も1番に飼料化、2番目に堆肥と出ているんだから、水切りだけを話すというのはもってのほかなんです。それは資源の水分を切れれば確かに減るんですが、生ごみにはリンという枯渇資源が含まれていて、堆肥化することで枯渇する資源が回収できるということが非常に大きいんです。そういうことも含めて、ぜひ啓発を。

私たちは3デイズプラスチックチャレンジといって、まず3日間、ワンウェイプラスチックをしない暮らしを考えようという活動をしたらものすごく効果があって、そこから活動をスタートした若者がいたりとかしているの、ぜひ先手を打つということでも、実際に教育につなげる芯を回すという方法で、食ロスだけでなくコンポストももっと前面に出してほしいなということもあります。以上です。

## 【部会長】

いろいろな具体的な提案も出ていますけれども、何かそのほかに。

## 【委員】

私も、全体的に非常にデータが増えて良くなっていると感心しています。

3点あるんですけど、まずは全体的な話からいくと、この報告書自体は非常によくできていると思うんですが、外の視点が欠けているのは先ほどのサーキュラエコノミーの話もあるんですけど、経済の視点です。

例えば、リサイクル率とか廃棄物の処理量という環境指標に直結したところのデータも揃っているんですが、環境産業に取り組んでいる関連産業の雇用者数とか、あるいは生産額とかそういった経済的な指標を入れることで、国の成長戦略の柱の一つに環境産業の成長という非常に重要なポイントがあるので、そこについて今後検討をしていただくことも考えていただきたいと思っています。

それからもう一つはデータの話で、先ほど委員から状況の変化という話があったんですけど、これは人口が増えたとか事業所の活動量が増えたとかそういうこともあるんですけど、もう一つはフローが変わっているところがあると思うんです。

例えば、ペットボトルとか資源ごみは基本的には自治体が回収していると思うんですけど、民間の回収量とか相当増えていて、そのフローをどこまで把握しているのかというところなんです。このデータの中に「民間協力店の 63 カ所の資源回収拠点」というのが書いてあるんですけど、これでも把握できているのかどうか。

うちの家内なんかもスーパーマーケットに持って行って、ペットボトルをうちに置いているとあふれちゃうので、回収日の前にスーパーマーケットに持っていくということが多くなっている。その辺のフローをどこまで把握できているのかというトレーサビリティの点については、もう少し注意する必要があると思います。

それともう一つは、プラスチックの問題なんですけれども、プラスチックは基本的には使用量を減らす努力とリサイクル率を上げていく努力と、もう一つは流出量を減らすという努力があって、これは例えばポイ捨てとか、川からごみが流れてくるので川をどういうふうにもモニタリングしていくとかです。県だと産廃の不法投棄のモニタリングとか一生懸命やっていますが、プラスチックは基本的に一般廃棄物が中心なので、そのモニタリングの責務というのは市町村になるのかなと思います。ここをどう考えていくかということも、今後一つ方向性としてあるんじゃないかなと感じております。以上です。

## 【委員】

先ほど委員のほうからも言われたように、データはいろいろ出されていると思うんですけども、ストーリーが決まっているようなデータの出し方のような気がして。例えば家庭系ごみだけじゃなく、事業系ごみの場合は事業者がどういう事業系のところから出てきているのかというデータがまずあって、その中からどんなごみが多くなっているのか、その組成はどうなのかというところで見えないと、事業者に対応できないと思うんです。それから中小規模なのか、事業者の規模によってどう違ってきているのかとか、そこら辺のデータがないので、家庭ごみと同じようなトーンで書かれると対策が見えてこないんじゃないかなと思います。

その辺りはデータの整理はされていると思うんですけど、できればちょっと違うトーンで出すと。いきなり建設系廃棄物の話が出てきているわけなんですけれども、建設系の廃棄物がどの程度出てきているのかとか、その辺りが基準年のところとどう違うのか、その辺りの変遷というのが、世の中の社会情勢の変化なのか、それとも皆さんの意識が低迷したのか、あるいは

システムがないのか、いろんな状況が見えてこないと思うんです。そこら辺の整理を、できたらしていただきたいなというふうに思いました。

それともう一つは、アンケートをいろいろ出されて、3ページの「市民のごみの減量意識の向上」と書いてあるんです。先ほど委員のほうからも言われたんですけども、意識ももちろん必要なんですけども、それをどう実践に結びつけていくのかというのが重要なので、その辺りをリンクさせるような何かデータというのがあればいいかなと思ったんですけど。その辺りはどこから評価をしたらよろしいでしょうか。これは質問になりますけれども。

#### 【部会長】

どうですか、ありますか。

アンケート調査を90%ぐらいが知っているということになると、協力度っていう言い方もあるんですけども、本当にそれを取って見たら何人ぐらいが協力者かと。われわれも過去のデータで25%ぐらいです、大体協力するのは。無関心層が大体25%いて、間の50%というのは浮動票ということで、タレントさんが離婚したといたらみんなタレント評論家になって、今度は何とかと言ったら交通事故のそういうようになって、それが50%。それをどっちに味方に付けるかということで、意識はあるけれども行動範囲に移していくかとか、協力者にしてるかとか、その辺をしないと「みんな関心を持っています」で良くなったというのは、よく業界が出すデータと同じなんです。

プラスチックなんかでも、学生さんにも昔言ってたんですけども、生産量を無視して昔は30%のリサイクルだった、今は80%ですよって言ったら、10倍に生産量が増えておけば、20%の捨てられる量は最初の10年、20年前の量と同じぐらい、あるいはそれ以上に出るわけです。それが散乱ごみになる。そういうことをしないと、アンケートのトリックに引っ掛かってしまうという話だろうと思うので、その辺りの何かデータがあれば、なければそういう視点でまた取っていただくということでもいいんじゃないかと思えます。

#### 【事務局】

今回の市民アンケートについては、定期的にやっている部分が多くございますので、もともと中間目標を想定してアンケート調査等も検討に入っておりますので、そういったご意見を踏まえながら提示していきたいと考えております。

#### 【委員】

こう見ていると、家庭ごみの古紙がなかなか進んでいないということで、古紙リサイクルのやつで古紙回収袋というのを作られたということで、うちに届くかなと思って楽しみにしていたんですけど、先日聞いたら取りに行かないともらえないと。その辺のところをもっと啓発をしていただきたいなというのが1点です。

それとうちの家庭で、私の家は結構雑がみをいろいろとリサイクルをやらせていただいているんですけど、家内とか子どもとなるとペットボトルはリサイクルでちゃんとやるんだけど、その辺の意識がないというのが現実なんです。そういったところを行政としてももう少し取り組んでいただきたいなというふうに思っています。

それから事業系のほうの古紙を回収するというところで、事業系になると今度は会社という一つの組織だから、やっぱりこれはすごく量が増えてくるのかなという気がしています。その時

の回収するほうの対応ができるのかっていうのが、一つちょっと心配点でもあるので、その辺のところも今後やっていただければと要望しておきます。よろしくお願いします。

**【委員】**

先ほどの市民アンケートの話ですけれども、市民アンケートをする時のアンケートの対象者というのは、どういうふうに決めてあるんですか。

**【事務局】**

市が定期的実施しております市民の意識調査ということで、20歳以上の市民を無作為に600名を抽出して、広聴課のほうでやっているアンケートのほうに私どもの質問項目を現在のアンケートについては入れさせていただいて、毎年、定期的に状況を確認しているという形でございます。

**【委員】**

今、600名の対象者と言われましたけど、そのうち回答率はどうなっているのか。

**【事務局】**

昨年は8割以上ございましたので、かなりの量が回収されております。

**【委員】**

僕が思ったのは、いつも同じ方にアンケートをしていたら、結果的に同じ内容のものしか出てこないと思ったので聞きました。

**【事務局】**

はい。毎年変わります。

**【委員】**

それと併せて、回答率がどんなものだろうかというのがあって、要は関心ある人は、リサイクルとかそういうものに関心がある人は当然回答をしてくると思うんですけど、関心がない人はいくら言っても関心がないと思うので、このデータとしてどれだけ精度が高いのかなというのが気になってお聞きしたんですけれども、今大体聞いたので分かりました。

**【部会長】**

いろんな厳しい意見も含めて、ただ、時間もありますので、今指摘があった中で、一つは達成目標と乖離が非常に大きくなっているんじゃないかと、だからそれをあえて「頑張ります、頑張ります」では、もう耳たこになっていますから、それよりも思いきってリセットをかけて、もう1回現状に合った形でしたらどうかという意見が出ていますので、これはまたすぐにできる話ではないので、あとのほうから意見が出るかもしれませんが、局のほうでいろいろ事務方を含めてしていただきたいなというのが一つかなと。

それといろんな施策が少しずつ増えて、われわれは最初よく知っていますけど、当時はどんどん減量数値が大きいほうがいいと。取り組みだということで当時は名古屋が50%、横浜が



30%、福岡は負けないぐらいという雰囲気があったんだけど、あえて 10%という数字をしてでも乖離したわけです。先ほどちょっといろいろ話したのが、もしあの時 30%にしていたら、今の 3 倍ぐらいのずれが出ますから、ひょっとしたらとんでもない乖離が起きていたのではないかと思ったんです。

ただ、人口が 10%増えているというのは、結局、12 万ぐらいは増えています。宗像市さんがひつついたぐらい大きい増加なんです。その中である程度制御がかかっているというのは、それぞれの時代背景なのかなというんですけれども、きめの細かさからするともっとやるものがあるというので、もう少しその辺を含めて乖離しないような形で、合わせるという意味ではなくて、ちゃんと合っているかということが一つかなと。

それからもう 1 点は、当然人口が今は景気よく伸びていますが、何かあればどんどん近隣みたいに減衰する可能性がある。その時も見越して、これから 10 年、15 年、あるいは 30 年まで考える場合は、やっぱりそういうのに合うような形がいいのではないかとすることが重要なことかなと。

それから、委員から一つ指摘がありました。何で 4R はやらないのか、まだ 4 とか 5 とかいっぱいあるんです。数字も大きければ大きいほど何となく具体的なんですけど、ただもし事務局に残していたら、次に配ってほしいんですが、あの時にわれわれ事務局はどういうメッセージをそのほかに送ったかという、後始末のリサイクルから脱却して、物の作り方と物の使い方の方に光を当てようという明記、今までいう 2R なんです。2R にした。

リサイクルというのはものが増えれば、さっき言ったどうでもなりますので、そうではなくて、やっぱり拡大生産者責任、それと賢い消費者になっていこうと。これは環境教育も含めてです。そういうメッセージを入れています。もう 20 年たっておりますので、もう 1 回皆さん各いろいろな委員がおられましたので、その人たちの英知がほぼ集約されている。マスコミも参加していました。

だから福岡は全国に先駆けて、新聞の販売店回収というのは全国で初めてだったんです。そういういくつかの特徴がありますので、そういうものを含めて、もう 1 回今回の見直しの時に参考にさせていただきたいという気持ちがございます。

それから環境教育です。いろいろ誰でも昔からやっていますけれども、有料化の指定袋の時もかなり苦戦したんですけれども、その時に環境ファンドを作っているんです。この中にいろいろな仕組みをして、アンダー 30 プログラムとか、市民・区役所のごみ減につながるような。ところが、どんどん、どんどん、何となく関心がなくなっているんです。もう常連さんばかりが来るようになってきた。これもやっぱりいかなものかなと。

関心層が、そのために金がないと続けられないという方たちが割と来るよう。学生さんが多いわけですから、学生さんのテーマにどんどん入ってくるのがいいのではないかと、よその自治体がうらやましがっているわけです。財政規模の厳しい中でそういうファンドが、上限は 100 万、それを 3 年とか 5 年続けるのもありますし、確かにその中にはのすごい素晴らしい環境教育がいくつかあるんです。しかし、全体的な裾野の広がりという面では、やはり厳しいかなと。それはプラとか生ごみとか、あるいは何となく環境の企画が多いんです。そういう面では、それももっと積極的に増やしていったらいいかなと。

最後になりますけど、計画課長から具体的な数字が出ましたね。何でプラスチックを分けずにしたら、いろいろ夜もやっているし何とかという、具体的な内訳が出ましたよね。ああいうのをどこかで説明をされたほうがいいと思うんです。

よく言われるのは、福岡はごみの分け方が少ないんじゃないかと。ペットとびんを何で一緒にするかという話は、実は福岡でしかできないやり方なんですけれども、そういうところは内容を説明すると多くのお客から来た人が納得をするわけです。「なるほど」と。言わないと、施策をやっていないんじゃないかという指摘ももちろんあります。そうならないために、その今の生の内訳をされたほうが、住民も納得するかなと。便利さとの裏腹なんですけれども、そういうのをやってほしいなということで、5つか6つのかなり指摘がありました。

それから昨日も国連で若い高校生の方が涙ながらに訴えた、ああいうのを考えると、本当に経済とあれだけでは解決できない問題がありますので、やっぱりそういうものを含めると、この辺でもう1回リセットかけ直してやるのも一つの手じゃないか。そういうのではないかと、皆さんが言っているのは。

そういうことで、冒頭皆さんデータが見やすくなったと。大変だったと思うんです。まだまだ問題はありますけど、そういう形でちょっとここをまとめたと思います。よろしいでしょうか。

#### 【委員】

もう1点だけいいでしょうか。

さっきの指標の話なんですけれども、国自体が経済も考えた指標がありますよね。GDPで割る指標がありますね。ここで最初の指標のところはごみの処理量になっていますけれども、最終処分量を見てますよね。

というのは、福岡市もいろいろ施策が変わってきています。例えば木材チップと、確かに民間に委託すると言ってますけれども、ごみ発電をするために、ごみをある程度入れたほうが良いというような施策も片方でありながら、要はリサイクルとそれっていうのが、何というか両立する形での評価をしないと、やはりリサイクルだけだと行き詰まってくる気がするんです。だからそこら辺は、国の施策はある程度そういうことを考えながら多分指標が作られているので、それもある程度評価指標として入れていかなきゃいけないんじゃないかなと思うんです。

確かにこの循環のまちの場合は独特な独自の指標を作っておりますけれども、それはもちろん活かすべきだと思うんです。2Rを推進するためには、多分ごみの処理量というのは当然減らすというのが必要かもしれませんので、そこは必要なんですけれども、やはり発展していくとか市の活性化、元気のあるまちとしては経済の活性化もあるし、いろんな意味であると思います。それを両立させるような指標を入れてほしいなというのが、今後の私のコメントです。

#### 【部会長】

一応、今いただいた意見も踏まえて。

#### 【委員】

ちょっといいですか、一言だけ。

先ほど部会長が言われたみたいに、私もずっと長い歴史の中でというか、ごみ減量をしてきたので感じるんですけれども、やっぱり福岡の良さみたいな、夜間回収だとか分別は少ないんだけどちゃんとリサイクルしているんだというようなことをきちっと伝えながら、最終的にはやっぱりリデュースじゃないかなと思うんです。ここをどれだけ教育していくか、推進していくか、啓発していくか。

とにかく中にプラスチックでもビニールでも何でも、とにかく中に入れない、家の中に持ち込まないということも強調していくということ。何かメリハリを付けていく時にそこが特化していくと、プラごみが減っていくところにもつながるんじゃないかなと思うんです。ですからぜひ福岡の良さを伝えながら、やっぱりやらなければいけないことというのをしっかり伝えていってほしいなと思います。

**【部会長】**

貴重なご意見ありがとうございました。

**【事務局】**

今日いただきましたご意見を踏まえて、これからの施策を展開していきたいと思いますので、またこれからもご支援のほどよろしく願いいたします。以上です。

**【部会長】**

分かりました。今いただいた意見をまた少したたきまして、11月の初めに開催される環境審議会において、もう少し説明ができるように報告させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは次の3の報告に移りたいと思います。「古紙分別強化に向けた今後の取組み及びスケジュール」について、事務局からお願いします。ここはまさに今後の一つの目玉かもしれないので、よろしくお願いします。

報告 古紙分別強化に向けた今後の取組み及びスケジュールについて

**【事務局】**

(資料2について説明)

**【部会長】**

どうもありがとうございました。大きな施策の転換ですのでいろんな意見があると思います。どうぞ皆さん、ご意見、質問あるいはコメントがあればお受けいたします。どうぞ。

**【委員】**

古紙回収ボックスについてお尋ねしたいんですけども、確かに私たちも調査研究した時に、なかなか少量でそういうのは面倒くさいからというのが多いので、そういうのがあるといいなと思うんですけども、例えば家庭系の古紙回収ボックスがありますが、あそこに持ち込んでしまって、今でも私の周りにはあふれるばかりに、ドアも壊れるぐらいあふれている状態が結構続いていて、そこに持ち込んでしまう可能性があるかな、逃げ道として思ったりするんですね。

われわれの町内は土日しか開かないので、事業所の休みの日しか開けないようになってるんですけども、壊れたりしているとどうしてもそこに入れたりする可能性があったりしますので、その辺りの区別というか、そこへの移動についての対策とかいうのはお考えか何かありますか。

#### 【事務局】

現在の古紙回収ボックスにつきましては市民対象ということでございますので、事業所からの受け入れはいたしておりません。

この古紙分別強化に向けた対策を検討する際に、やはりご意見として市内に400カ所近く古紙回収ボックスがございますので、それを開放したらどうかというご意見もいただいたところではございますけれども、地域集団回収の実施団体のアンケートを取らせていただきましたところ、半数以上が管理者が高齢化しているとか、そういうところでこれ以上の増加には対応できないということで受け入れは困難という話がありました。

ですので基本的に、公共施設9カ所以外での古紙回収ボックスの受け入れは現在のところ検討しておりませんので、それについては広報の時に、ここだけですよというふうな話はきちんと説明していかないといけないのかなというふうに考えております。

#### 【部会長】

ほかに何かございませんか。かなり時間をかけていろいろステップを踏んでここまで来たんですけれども、いよいよこのスケジュールからすると秋から始める、そして1年かけて来年の10月ということですので、ちょうどオリンピックの頃ですね。外国人の方もいっぱい来るんじゃないかと思えますけれども、その頃にスタートを切りますので、ぜひご意見があればと思います。

#### 【委員】

まずは回収業者との連携というのをしっかり取っていただきたいなというふうに思っております。当然、この事業を始めるに伴って、コストもかかってくるだろうというふうに思いますので、その辺の予算化をする時の体制もしっかり構築する必要があるのかなと思っております。

それからもう一つは、広報期間というか周知ですね。本当にこれは当然、環境局が一義的には責任を持って事業推進する必要がありますから、いつも言ってますけれども環境局というのは全体の旗振り役でもありますので、そういう意味では市全体でこれを推進していくような、各局に対してこれをバックアップというか、いろんな企業も出入りをするわけですから、そういったところに各局を通じてしっかりサポートしてもらえるような体制を作っていくということ。それからこの取り組みだけではなくて、世界の取り組み、日本の取り組み、そして福岡市の市民が全体でどのようなごみ減量に向けた取り組みをやっているのかということをしっかりPRした上で、排出事業者に対しても取り組んでいただくようお願いというのをしていくことが大事かなと思っております。以上です。

#### 【部会長】

どうもありがとうございました。

#### 【委員】

やっどこまで来たかなという感じがしますけれども、特に私なんか私のオフィスが入っているところが一応オーナー企業なので、そこからは防災も含めていろんな情報というのはきちんと回覧で来るんです。

ですけれども、そうじゃない、たくさんの雑居ビルみたいなのがありますね、いっぱい会社が入っているような。そういうところにどう周知徹底していくかというところが、これからの課題になるかなと思います。出前もありますよとか、講座も開きますよというふうにおっしゃってるんですけど、関心がないところとかビルのオーナー自体があまり関心がないと、そういうところにも来ないと思います。福岡の場合はそういうビルがきっと多いと思うので、そういうところにどういうふうに周知徹底していくかというところが大きな課題で、そこがきちんできてくると相当進むんじゃないかなというふうに思います。

#### 【委員】

ごみというのは高いところから低いところに流れていくという一般論があるんですけども、こういうふうに義務化して事業系古紙の減免率を0%にすると、どこに流れていくかという話ですよ。市外に流れて行ったりとか、先ほどの一般市民向けのボックスに事業系のものがどんどん流れていくとか、集団回収の時にどさっと持ってくるとか、そういうイレギュラーなフローをどういうふうに管理していくかというところも併せて、ちょっと知恵を絞っていかないといけない点があるのかなという気がしました。

#### 【部会長】

広報の段階での取り組みのアドバイスと思うんですが、あと何かございませんか。

#### 【委員】

今の委員のお話ともつながるのですが、今回、この古紙回収部分の処理料というのはどういう処理料というか、徴収する処理料というのはどういう金額の設定になっているのかを教えてください。

#### 【事務局】

古紙につきましてはルートが2つございます。通常の今までの大規模の事業所等は、ビルごとに古紙回収、資源段ボール等々を集めまして、古紙回収業者に渡す。その金額はほぼほぼ0円であったり、若干の手数料であったりということで、ごみ処理にすればかなり安価な額で古紙が回収され、リサイクルに至るということと、昨年ご紹介しました時に昨年稼働開始しました「福岡市リサイクルベース」許可業者が設営しました紙の資源化施設でございますが、こちらは紙ごみとして回収をしまして、収集運搬料金は通常のごみと同じ金額になります。

プラス、そこに焼却する料金というのが1キロ当たり、本市の清掃工場であれば14円になるんですが、現在、「福岡市リサイクルベース」におきましてはその処理料金が半額の7円ということになっております。若干ではございますけれども、古紙として回収される分は安価に処理をすることができるというような形になっております。以上です。

#### 【委員】

ありがとうございます。恐らく分別して資源化するためにはインセンティブをそちらに付けないと、そっちに物が流れないということになるろうかと思しますので、その辺りは市場状況や運用状況を見て、恐らく調整をしていくということになるんだと思います。

その時に将来的に何を想定するかということをお考えすると、先ほどもご意見がたくさん出た

んですけどサーキュラエコノミーの発想でいけば、事業活動の中で古紙などについても削減できるもの、発生抑制できるものはそちらで動いていただくということを目指す必要があると思います。

だから、事業活動自体を変えるためにこういうところから働きかけていくということも大事だと思いますので、長期的にはそういうところを見据えながら、インセンティブをどう働かせていくかということを考えることか、大事だと思います。

そうしなければ消費者レベルで物を買わなければいけない、選択肢がないというような段階でごみの減量はできませんので、やはり生産者で事業活動のレベルで対応していただく、発生源のところでやっていただくというのが重要ですので、この辺りもぜひご検討をお願いできればと思います。

#### 【部会長】

ありがとうございます。どうぞ。

#### 【委員】

集めた後、そっちに行くと。行ったあと、どこに行くのか。そしてそれを誰が購入するのかという、やっぱり購入、リサイクルするわけです。購入しますよね。

お恥ずかしい話なんですけど、大学では紙は新品の紙のほうがバージンのほうが安いらしくて、指定をしなければそれが購入されたりするらしいんですね。いわゆるグリーン購入あまりやってないという感じなんです。プラスチックはほとんどがプラスチックというか、鉛筆とかボールペンなんか外がほとんどが R のばかりなんで、新品ってあんまり今のところないので、それを購入せざるを得ないのでそれを購入してるんですけど、紙の場合というのは積極的に言わないと高いので買わない。特にこのペーパーの印刷紙の場合は。ですので、できればその辺りは事業者グリーン購入のデータというか、ああいうのを取っていただけたほうがいいのと、推進していただく。

例えば環境省だと、環境省の報告書を提出する時は絶対 R100 指定で、インクも環境に優しいものじゃないと駄目なので、あえてそれを買わなきゃいけないんですね。ですので福岡市さんもいろんな事業所の方がいろんな報告書を出されると思うんですけど、そういう面では積極的にそういう指定をすとかいうような方向に持っていかないと、紙を集めたはいけど結局売れないから、また価格が下がって集められないとか古紙業者がもう要らないと言ってるとかそうならざるを得ないので、できればそっちのほうも推奨してほしいなと思います。

#### 【部会長】

そのほかよろしいですか。いろいろ意見があると思うんですけど、ちょっと僕のほうから、せっかくこの報告があったように、事業者用の資源化推進ファンドというのをこの委員会を中心として作ったわけです。財務当局が考えたわけじゃなくて、この委員会が作ったんで僕は 100%欲しいと言ったんですが、目的税じゃないから一般財源に入れろということなんですけど、そういうのをもう少し大いに活用してほしいなと思ってます。

一つはこう言われたんですけども、周知徹底しながら実際に動き出しますね、来年のうまく行けば 10 月 1 日に。その時のある程度のパトロールというか、評価する環境マイスターとか古紙マイスターでもいいんですけども、何かそういう制度をして、もちろん無料、ボラン

ティアというのは格好いいんですが、やっぱりそれはできませんので、何かファンドからそういうことをできたらいいなというのが一つ。

そうしないと、確か福岡市が最初切り替えた時も、かなりの区役所ベースで監視しながらチェックしていったわけです、袋の場合も。それぐらい周知しながらでもしないと、移行というのは非常に現場でトラブルになっているので、というのが一つ。

それからもう1点は、市長なんかはマスコミ出身ですから、もう少しこういう感じに対しての人の前に出るのは大好きだから、何かそういうパフォーマンスをやってほしい。パフォーマンスと言ったらいけないけど、ほんとに心からやってほしいなというのが僕の意見です。

やっぱり令和元年にスタートを切ろうとしてますから、令和のあれで「古紙を福岡は愛します」というぐらいを各放送局に協力要請して、出る。実はつい1週間ほど前に廃棄物学会が全国であったんですけど、その時に経団連の方が1時間、とうとうと施策を述べたんです。みんな退屈して、そんなのはみんな知ってるというのを饒舌にずっとしゃべるわけです。一向に、やらないといけないという気持ちにならないんです。

ああいうのはもう経団連は大好きなんです。人の前では「やっています」と、でも現実見れば、今言われた中小企業なんか入ってませんので、誰もそういう施策は、ただもう空お経です。そうならないためには、やっぱりもう少し見える形でのPRをしてほしいなというのが、この古紙の大きな施策転換ですので、それをやってほしいなという気がしています。

その財源は、できたらどういうパフォーマンスがいいかというんだったら誰かグループが、NPOでも何でもいいですけど、手を挙げて申請してくればいいんじゃないかと、あと1年以上ありますから。そういうのをできたらいいなということが一つです。

もう1点は、多分これをやってもなかなか周知徹底しないだろうと。一つは福岡というのは中小零細で1万社ぐらい増えたと言ってますけれども、多いでしょう。そうするとどうしても働く人たちが、いわゆるパートタイムという非正規雇用の人が多いわけです。次々に代わるわけです。そうするとオーナーが「あなたこうしときなさい」と言っても、やっぱり理解度が悪いというような感じですから、なんかそういうのも少し、何て言いますか、最近テレビでいっぱいやってますけど、その中に施策への協力を一筆入れさせてしないと、自分の腹は痛まないんです。会社が払うわけですから。自分の家で払う場合は自分の腹が痛むから、結構協力度は高くなるんですけども、事業系はそういう欠点がありますので、そのこのところをちょっと工夫してほしいなと。

もう1点ですけど、最後になりますけど、ちょっと長いけれども申し訳ない。雑がみというのが僕は前から気になっていまして、私が学会の時に東京の方に会ったら、東京の地区なんかで言っているのはミックスペーパーと言っているんです。これがさすがだなと思うのは、横浜なんかもそうですけれども、国際都市になったらこれを海外に向けたパンフレットに、外国人の方に、パンフレットと言った時に雑がみというのを英語とか中国語にどんなふうに直すのかと、それもぜひ考えてほしい、これから令和にかけて。

市長を含めて、皆さん国際的なPRをしているわけだから。中国語は、日本語の雑がみと言ったら「雑」という漢字が入ると思うんです。そうするとこれが資源可能かというのはなかなか。これを英語にした時はどうなりますか。何かいい提案があれば。恐らく、いわゆる資源回収可能な紙というのと同じになってしまっていて、そのこの区別が段ボールだとか古紙ニューズペーパーとか、区別しにくいと思うんです。そういう面では、業界で使っているミックスペーパーという呼び名があって、東京とかいくつかそれを使っているところがあるんです。やっぱりそ

ういうのを、博多弁でも何でもいいんですけど、何かやってきたほうがインパクトがあるかなと。

この間も、さっき委員のほうからも、そういうのが資源になるのは初めて知ったという人がいっぱいいるわけですよ。そうならないために、施策の転換の時にぱっと、オリンピックの年に2020年4月から「2020ごみ」でもいいわけですよ。何でもいいわけですよ。これは古紙だ、リサイクルペーパーだという形で、何か呼び名をもう1回検討したほうがいい。ずっとこだわってるんです、僕は。ぜひ検討していただければと思います。

いずれにしても、各委員も含めて、この令和元年11月から広報始めて、1年かけてスタートを切るということに対しては、大筋では特に問題ない。だから周知徹底とあれだけは間違いのないようにしてほしいという要望ですので、これはきちっと見直していただいて、法的な手続きにミスがならないようにして、同時に次の審議会の時にまたかけていただくようにします。

大体これで持ち時間が来ましたので、あまり長くなるとこの辺からまた言われそうなので、今日の議題を終わりたいと思いますが、何かございませんか。これで本日の予定された循環型社会構築部会の議事を終わります。

#### 【事務局】

松藤部会長、委員の皆さま、ありがとうございました。これで本日の環境審議会循環型社会構築部会を終了いたします。皆さま、本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。